

“ころころ”を主宰する與儀さんとの分科会

7月28日、福祉センター

担当：竹内一良記

1. はじめに

17～18人が参加した。まずポストイットを配り、質問を記入してもらうようお願いした。しかし、一向に筆が進まず、困った顔をした人が多く居たので、進め方を変更した。

順番に、名前を言い、質問・意見を言ってもらい、全員にまず発言してもらった。その要点を竹内が黒板(白板)に記入し、與儀さんに答えてもらった。質問もあったが、與儀さんがやってきたことに「感心した、頑張ってください」などのコメントが多かった。

2. 年寄り、障害者、子どもなど、誰もが集える場所って誰もが考えるけど、実現は難しい？

活動を成り立たせるには、4つの要素 ①場所(活動の拠点)、②物、③人(スタッフ)、④資金 が揃う必要がある。今回は場所が見つかったことが大きい。私たちの借家は、築80年で、8畳間を「田」の字型に配した典型的な民家である。大家さんの曾祖父が建てたものなので、親が生きているうちは壊せないことで残っていた。駐車場代を含めて24000円/月と、手の届く金額で貸してくれたので、始められた。但し、もともと耐震性に不安があったことと、直近では、下水道工事をしなければならなくなり、今年の9月で、壊される。

3. 活動拠点がなくなったらどうするのか？

スタッフの中には2つのグループがある。1つは、活動場所がなくなった前提で、“ころころ”をどういう形にしてゆくか、考え話し合おうとする人達。

他の一つは、場所や道具があり、活動が決まっていたから、やってきたが、それがなくなるならやめるという人達。

前者の人達と今後について話し合っただけゆきつもりである。

4. 若いのに(小学校6年生と幼稚園の娘)、年寄りの世話をする活動に入ったのは何故か？

結婚してから、父母と祖母が身近にいたので、年寄りに特に構えるような気持ちは無かった。お年寄りとのふれあい活動に、ボランティアとして、娘を連れて参加した。その子が年寄りの中で、結構明るい顔をしていたので、こういう雰囲気が良いかもしれないと思った。

5. 活動の内容をもう少し詳しく？

年寄り、障害者、子どもなど、誰もが集える場所と企画して活動を始めたが、実際には年寄り向けの活動は、食事とカラオケで、それもだんだん消えていった。若いお母さんと子どもが集まる活動が残り、それが中心となった。

世話をする人が若いので、自分たちは迷惑をかけていると気遣い、足が遠のいたのではないか。

6. 世代間の交流は無いのか？

お母さんと子どもの集まりに、地域で安全活動や防犯活動をしている高齢者に来てもらい、説明や共同作業をするやり方で、世代を超えた交流を図っている。

7. 参加費などの費用を詳しく？

年会費は、3000円である、以前は、非会員が飛び込み出来たときの参加費が安く（200円とか300円/回）、会員のメリットが無かったので、多くの人が会員にならないで、その都度支払うようになった。これでは団体として、資金的に困るので、今は、会員が有利になるように、参加料金の設定を変更した。昨年までは、さまざまな助成金を受けてきたが、今年はやめた。補助が無いと運営的には苦しい。

8. ぬいぬい倶楽部

アイシン精機の補助金を受けてミシンを買うことが出来た。縫うことが得意な人が仲間を教える形で進めてきた。かなり人気があった。拠点がなくなると、このミシンの置き場所も考えなくては行けない。

9. スタッフのやる気・モチベーションを維持するのは難しいと思うが、

活動拠点があり、物があると、活動を続けやすい。

はじめの一步などの助成金をもらうことは、士気を高める。

参加のお年寄りにも役割を持ってもらうと、案外元気にやってくれる。

10. 万が一の事故？

他人を世話することを躊躇する理由の一つが、「もしも事故が起きたとき、自分がその責めを負わなくては行けない」との恐れだと思うが、どう思うか、との問いに対して、活動の代表者として、万が一事故が起こっても自分が責任をとるんだという覚悟で活動をしている。

もちろん保険にも加入した。

11. 高齢者は誘っても、なかなか出てきてくれない人が多い

趣味を通じて付き合いを始めるのが良いのではないか

12. 今後の夢とか・計画は？

一人暮らしの高齢者が増えてきている、何とか助けてあげられないかと思っている。

経営のセンスももう少し磨きたい。

13. 追記

やっていることの困難さが理解できる人が多かったようで、「なぜ始めたのか、どうやったら続けられるのか」、といった質問が多かった。このメモではその答えを十分に表現できていないかもしれない。